

平成27年度第2回石狩市地域包括支援センター運営協議会

開催日：平成28年2月26日（金）

時 間：18:00～18:50

場 所：石狩市総合保健福祉センター

りんくる3F 301・302 会議室

傍聴者数：1人

【出席者】

委 員：橋本会長、橋本副会長、須貝委員、渡辺教円委員、奥山委員、松原委員、川村委員、堀内委員、渡辺愛美子委員

事務局：三国部長、巴課長、長谷川課長、内藤主査、岩本主査、高田主査、宇野主査
佐藤主任

厚田地域包括支援センター：熊谷課長、富木主査

浜益地域包括支援センター：若狭課長、小島主査、工藤主任

北地域包括支援センター：菊地センター長

南地域包括支援センター：阿部センター長

議事録

○地域包括支援センターの運営について

① 平成27年度第3四半期までの事業実績報告について

事務局・各包括から資料1（P2～P20）「地域包括支援センター設置状況」「介護予防ケアマネジメント」「介護予防サービス利用状況」「総合相談・支援事業」「平成27年度事業評価」について説明

【質問・意見】

橋本会長：ただ今のご説明についてご質問等があれば受け賜われますがいかがでしょうか。

橋本副会長：資料の作り方ですが、南と北の順番がばらばらなので統一したほうが見やすいと思いました。聞きたいのですけども、南包括で孤独死のケースが増えてきているとのことですが、実際経験したのは何名くらいでどのような関わりをしたのでしょうか。

南包括：孤独死されていた方は今年では2ケース。増えてきているというより表面化していると言えると思っています。

橋本副会長：この方はどちらも病院も掛かっていないし、介護保険も申請していなくて何も取っ掛かりがなくて孤独死したということですか。

南包括：どちらの方も介護保険は元々は申請していず、最初に関わらせていただいた時に介護申請をされて、その時は病院も行っていなかったのですがこちらの勧めで1回入院をしました。本人退院されてからお元気で、見守りもあったので、こちらでは勧めたがサービスは利用していず、何ヶ月かたった時に新聞がたまっているということで行ったら亡くなっているのが発見されたということです。

橋本副会長：何ヶ月というのは？

南包括：1回関わって半年くらい見守りを民生委員がしていました。

橋本会長：亡くなって半年間発見されなかったわけではないのですね。

南包括：はい。1回目関わってから半年です。

橋本副会長：亡くなってどのくらいで発見されたのですか。

南包括：溜まっていた新聞が2～3日ですね。

橋本副会長：浜益の方に質問です。ドライマウスの治療をされている方ですが、薬が多くてドライマウスになる方が結構いますが薬との関係はいかがですか。

浜益包括：治療されている方ではないが、自覚症状として口の渇きがあって夜中に水を飲むことが多いと訴えられた方がいらっしゃったということでドライマウスと診断を受けているわけではありません。

橋本副会長：石狩市でここ2～3年社会的な人口の減少があり昨年度で500人以上でしょうか。花川北でも空き家が目立ってきていますね。ご高齢の方に関わらず、石狩市に住めなくなっている原因として何か感じる事はありますか。

事務局：きちんと市として分析しているわけではないが、感覚として高齢になった時に札幌の家族の近くのサービス付き高齢者住宅等に移っているのかなということはありません。

事務局(部長)：これまでも北地区の減少は続いておりましたが、緑苑台、花畔近辺の人口増でかなりその部分の穴埋めされていたのが実態です。樽川もそうですが、この度樽川地区で一部宅地開発がされましたがそこくらいで他はだいたい落ち着いた中で人口減だけが続いたのでかなり突出した形で出たんだと思います。ご指摘にありました花川北につきましては確かに一時期の団塊の世代が定年にさし掛かる頃。ここでの2世帯住宅化の議論もあったのですが、都市計画の関係でそれに反対される意見も多少あってなかなかその容積率を緩和できなくて2世帯化が進まない中で高齢者だけが残って周辺のマンションに転出していくというのが事例がいなめないかなと。かれこれ10年くらい前はお子さん世代が出戻りで戻られてお住まいになるというケースもあったのですが、これもそういう世代がいなくなると人口減として現れてきたのかなと思います。

橋本副会長：先日新聞か何かに出ていたのですが、同じような規模の北広島市と比べるとかなり石狩市とか当別市もそうですが減少が多く、札幌でも南区とか

住みづらい所が減っているかなというイメージがあり、非常に危機感を抱いてもらったほうがいいかと思います。

② 平成 28 年度石狩市地域包括支援センター運営方針（案）について

③ 平成 28 年度事業計画（案）について

事務局から資料 1 (P24～P31)「平成 28 年度石狩市地域包括支援センター運営方針(案)」
(P33～P40)「平成 28 年度事業計画（案）」まで一括で説明

【質問・意見】

橋本会長：ただ今のご説明についてご質問等があれば受け賜われますがいかがでしょうか。

橋本会長：それでは私のほうから、厚田地域包括支援センターでは今年度からセンターだよりを発行し、28 年度も発行を継続するということですが、何か発行にあたって難しさだとか、期待したい反応等何かありましたら教えて下さい。

厚田包括：今年度から厚田地域包括でセンターだよりを発行するにあたりまして、まずどのようなテーマを設定したら良いか支援センターの中でもいろいろな意見がありました。回覧ということで高齢者だけでなく全住民に見ていただきますので、高齢者に対する情報提供と、地域に住む方達に知っていただいて高齢者の方に対して助言ですとか身近なところで相談に乗っていただけるような知識を得てもらいたいという事で内容を考えていきました。その内容の中で一番迷ったところでは最近発行した「今後どのような生活をしたかというところを早めに考えていきましょう」という内容です。私たちが訪問している中で厚田にずっと住みたいという気持ちがありながらもやはり難しくなっていくため、自分の気持ちをはっきり言えるうちに考えていただきたいという内容で伝えたかったのですが、その表現の仕方の難しさを感じながら発行させていただきました。その後訪問して対象の方から意見をいただき今後の参考にさせていただこうと思います。

橋本会長：やはり土地柄と言いますが、それも厚田地区と言いながら一定じゃないと思いますのでご苦労があるかと思いますが平成 28 年度もよろしく願います。

橋本会長：それでは私からもう一点。北包括地域包括支援センターの重点目標の最後のほうでネットワークの拡充を図るとあり、それから説明文の中では各町内会毎に見守りネットワークというものを少し明らかにしていきたいというような事でしたが、見守りネットワークというのは先ほど橋本委員のほうからも孤独死の話が出ていましたが、近所での見守り合いも関連するかと思いますが、イメージがあれば話していただけたらと思いま

す。

北包括：ありがとうございます。私たちが「見守りネットワークの拡充」と表現したのは、平成 27 年度に右岸地区である認知症の方の地域ケア会議を行い、その中で徘徊認知症の方々をどのように早く発見して安全に守っていくかというテーマによります。この地区は花川北のような街と違い、車も人も少ないという中で商店や交番やデイなど地域にある機関に協力者になってもらうということで会議にも参加してもらったという経過があります。その中でその方を見守るネットワークを作っていきたいということがあって、今年度その中で作ってきたネットワークをどのように活用していくかということを考えました。それぞれの町内会毎で違いますが、地域の皆さんが地域の課題を抱えていらっしゃる場所もあるので、そうした事を私たちも教えていただきたく、皆で話し合える場から社会資源や制度の提言に結びつけたい思いもあり、「拡充」という言葉を使わせていただきました。

橋本会長：町内会毎に資源の状況も違うし、独居だったりテーマが異なると想像されますのでそのあたり難しさはあると思いますがよろしくお願ひします。他にございませんか。それでは次第の 2 にあります「地域包括支援センターの運営について」の運営方針（案）、事業計画について終了したいと思います。

○その他

事務局：最後に皆さんにお礼を伝えたいと思います。実は去年の 1 回目の運営協議会で地域包括支援センターの周知についてたくさんご意見をいただきました。その後地域包括支援センターの各機関と意見交換して自分達でできるところがないかと考えました。報告にありましたように広報に毎月相談窓口を載せる、南北包括ではリーフレット、厚田・浜益では広報誌を作成等各包括で取り組みは違いますがそれぞれの包括ががんばりました。皆さんの気づき等をこういったところであげていただけましたら、工夫できるところをがんばりたいと思いますのでよろしくお願ひします。

平成 28 年 3 月 15 日 議事録確定

会長署名

橋 本 伸 也